

第19回庭野平和賞受賞記念講演

このたび第19回庭野平和賞にご推薦いただき、そしてなお受賞者に選んでいただいたことに対し、私はいまだに当惑しております。国家間の地平が変化し、私たちが再び戦争に満ちたこの地球に暮らしている現実を前にして、私はなおさら困惑せざるを得ません。数多くの罪のない人びとが不公正な社会構造の犠牲となっていますが、武力による対応を正当化して犠牲者の数をさらに増やしてしまうかわりに、暴力や死のもととなる経済構造や政治構造の改革を可能にするグローバルな歴史的決断を下す機会は、時の過ぎ去るなかで今や私たちのもとから遠く離れてしまいました。

ただいま申し上げたような状況に身を置きながら、このような賞を感謝して受けられるものだろうか、多くの人びとの苦悩や人権侵害の認知に対して与えられる賞を、喜んで受賞してよいのだろうか、私はさらに自問せざるを得ないのです。

人権の擁護に対して与えられる賞は、どれも人権侵害の存在や権利そのものが尊重されていないという事実に認知を与えます。庭野平和賞を授与されるということは、残念ながらメキシコには、とりわけチアパスにおいては、人間の尊厳がまだ十分に守られていないことを意味します。

こうした内容の賞は、死や悲しみ、そして戦争や暴力の現状に対し、私たちが前向きな方法でより近くまで迫り行くことを可能にします。言葉を変えれば、賞によって不正義を原因とする苦悩の現実が明らかにされ、おのずからより多く人びとの関心はその現実に対して喚起されるのです。

沈黙を強いられてきた人びとや刑務所に収監されている人びと、あるいは生きることに精一杯でこの賞の真の受賞者でありながら直接に賞を受けることのできない人びとに代わり、私はこの榮譽を受けさせていただきます。

しかしながら、暴力や人権侵害の被害者は彼らだけではありません。アメリカ大陸には他にも疎外され、温かい食事を口にできず、人間らしく生きるための必要最小限なものさえ手に入らない人びとが数多くいます。

しかし、そうした苦悩と暴力のただ中から、貧しい人びとの良き知らせが私たちのもとに届いていることに気づかされます。

貧しい人びとの良き知らせ

私たちが未来に託する希望は、実は貧しい人びと、すなわち先住民や農民の間から生まれ

てきます。貧しい人びとによって、時は意味を持ち始めます。彼らを搾取する経済システム、彼らを疎外する政治システム、そして彼らの中傷する社会システムにも必ず変化の時が来ると、常に私たちに希望を与えてくれるは貧しい人びとなのです。

貧しい人びとの存在は、人間の利己主義や争いの証拠です。しかし同時に彼らは、歴史を通して最も重要な変革をもたらした力でもありました。

いつの時代も貧しい人びとは私たちにとって救いの仲介者です。貧しい人びとの存在は人間関係を判断する拠り所であり、彼らが人間としての尊厳を保ち健康で暮らせることが公正な経済システムの基盤なのです。私たちが歴史を語ることのできるのは貧しい人々がいるからであり、彼らなくして自分たちの存在を理解することは不可能です。

本日の受賞を通し、私はチアパスの農村地帯やメキシコ全域の先住民やメスティーソ（混血）の農民など、貧しい人びとを苦しめている現実に対し、あらためて糾弾の声を上げることができました。同時にこの受賞を通し、貧しい人びとが不当にも日常経験させられている貧困とは何か、そこに込められた意味を皆さまと分かち合うことも可能なのです。

ここでパスクアラのことをお話ししましょう。パスクアラは生活のためにたびたび私の家にパンを売りに来ていた先住民の女性です。若くて小柄な彼女は、いつもうつむいて地面を見つめながら歩いていました。ある日挨拶をしてから彼女にどこに行くのかと尋ねますと、つぶやくような小さな声でこれから学校へ字を習いに行くところですよと答えました。私は彼女の努力をたたえ、彼女を励まして別れました。次の日、最初の授業から帰ってくるパスクアラに偶然会いました。授業の様子を尋ねると、彼女は顔を上げて私に近付いて来ました。そして私の目を真直ぐに見つめながらノートを広げ、「これを見て、字を習い始めたの」と言って、その日最初に書いた単語を指さして私に見せてくれたのです。彼女の変化はとても大きいものでした。もう劣等感に悩むこともなく、その笑顔は輝いていました。

他の人にとっては日常の何気ないことかもしれませんが、こうした新しい出来事のために、一人の人間として自分を発見したパスクアラの生活には大きな変化が起きました。もう彼女はうつむいたりせず、まっすぐに顔を上げ背筋を伸ばして歩いています。

多様であることの権利が平等な社会を作る

経済や政治体制にとって、貧しい人びとは取るに足らない消耗品として見なされる一方で、歴史はどのような変革も貧しい人びとなしには起こり得ないことを示しています。逆説的ですが、貧しい人びとは変革の主導者なのです。

私たちにとって理解しがたいのは、貧しい人びとを作り出し、搾取し、現在の姿にした社

会体制が、貧しい人びとを拒絶し、彼らの存在自体を否定し、無視し、排除し、疎外している体制と同じものだという事です。

貧しい人びとは社会体制の障害となり、先住民たちは生産面で重要な役割を果たさない限り無視されます。こうした体制や、そのもととなるイデオロギーは、平等であるために欠かせない「多様であることの権利」に対してはほとんど理解を示していません。

つまり、秩序の保証人であるべき公務員たちは、実は選択の自由や他者の存在を認めない画一性の保証人へと変わってしまったのです。

平等であるために多様性を保つ権利は近年さまざまな形で表明されていますが、いまや貧しい人びとの権利のひとつとして認識されることを求める闘いが続けられています。今日、この権利に関して多様な表明がされている中で、とりわけ明白なのが先住民の人びとによるものです。

チアパス州最初のカトリック司祭であったパルトロメ・デ・ラス・カサスは、先住民たちには自治能力がないと主張して彼らの自由や歴史や近年の歩みを否定しようとした人びとと激しく闘いました。彼らはメキシコを植民地化して治安を保つことや、植民地体制の維持やそれに伴う法律は不可欠であると考えていました。裁判所も「自分たちに何が必要かわからないインディオには、善悪を判断する力がない」としてそれを容認しました。植民地開拓者が親切とみなした行為が、その結果として先住民保護のために必要だと弁護してやまない最も苛酷な搾取体制を生み出したのです。

私たちがこれから取り組むべき課題は、他者が自分と異なる点を認め、先住民の権利を認めることです。この課題に関しては、つい最近もメキシコで、政府官僚と先住民の対話を通して調印されたいわゆる「サン・アンドレス合意」をめぐる、その協定を承認しようとした法律が議会で否決されるという出来事があったばかりです。

先住民の声に耳を傾け、彼らの権利を尊重し、多様な生き方を受け入れられなければ、いくら否定しようとも人種差別の存在は明らかです。それでも、先住民の人々は今までの生き方を変えたくはないのです。

権力者は勝者の論理で生きているために、先住民に対して民族や個人としての認識がないということは恐ろしい事実です。

しかしそれが権力者の論理であり、それは排他的なものです。この論理の下では征服者と被征服者が共に勝利を祝うことなどありません。勝者はいかなる犠牲を払っても敗者の破壊を押し進め、敗者の声やいかなる対話の可能性も否定し、のみならず敗者の存在さえも否定しようとしています。すなわち勝者が求めるものは屈辱と死であり、相互を育む多様性を認めることではありません。

だからこそ私は、先住民や貧しい人びとが、いまやメキシコだけでなくアメリカ大陸全体に対し、変化や成長や出会いに向けての歴史的な機会を与えているのだと信じているのです。まさにそれは、共に集い、対話をし、無知なる途を正し、貧困の循環を断つための歴史的機会であります。

サン・アンドレス合意に次のような一節があります。

「メキシコ社会の一部を形成する諸民族とその文化は、基本的平等性の仮定に基づき相互の差異の尊重をもととして扱われなければならない。したがって、国は積極的にあらゆる形態の差別に立ち向かい、社会的および経済的不平等を修正すべく、その行為の基準をなす政策を制定し多元的な社会をめざさなければならない。」

弱者の権利

現在の経済政策が過半数のメキシコ人にとって有益な結果をもたらしていないことは否定できません。現在の経済政策を選択した人びとが大多数のメキシコ人の一人であるとは思えませんが、彼らは経済の極度な脆弱化は認めるものの、世界的な生産システムや市場経済に参画していくために現在の政策が必要であると認識しているのです。

スペイン語で「スズメ資本」と呼ばれているような資本の逃避について専門家は口にしますが、それは不安定な状況が生じた時や著しい増加が見込めない場合に国外へ流出する資本のことです。専門家は、貧しい人びとの苦悩は当面の間解消されることはないと警告しています。貧しい人びとはまだしばらく我慢を強いられ、私たちも待つ必要があると言うのです。

貧しい人びとが現行の法律を尊重し遵守することを要求される一方で、巨大資本家は最低限の道德義務さえ守っていません。私たちの国の天然資源を強大国に向けて運び去る軽率さは、極度の窮境に耐えながら生活している過半数のメキシコ人に対する重大な犯罪であります。

こうした悪習はやがて狂気へと向い、民族間や人間同士のつながりを分断します。繰り返しになりますが、私たちにそれが分かるのは貧しい人びとのおかげです。過剰消費が私たちから人間性を奪い、森林や熱帯雨林の大量破壊は生命を死に追いやることを彼らは教えてくれているのです。

貧しい人びとは、私たちが他者の尊厳に向き合い、異なる存在として他者を認識することを迫っています。そして私たちが世界を再建し、私たち自身が人間として再生することも強く迫っているのです。

すべての男女が作る歴史：私たちの未来への権利

屈辱的な出来事に直面したとき、私たちの良心を揺り動かすのは貧しい人びとの姿です。しかし彼らはまた、歴史の主導者であり、創造者でもあります。

貧しい人びとからの良き知らせとは、歴史を再生し未来の道を定めるべく彼らが歴史のただ中に出現したことです。この知らせのもとに私たちは引き寄せられ、共に集いました。貧しい人びとは他人の決定に従って生き続けることを拒絶し、人間として自分の生きる道を定める主人公になるのです。

貧しい人びとは、人類全体のために、時代と生命に深奥な意味を与えているのです。

本日は庭野平和賞をご贈呈下さりありがとうございます。私はこの賞の中に込められている貧しい人びとが負わされている苦悩に思いを馳せながらも、先住民や貧しい人びとの功労に対する皆さまからの報償の真心に触れることができましたことをうれしく思います。

ご清聴ありがとうございました。